納とある、是に因て思ふに、竿調國か、乃都は奴と切り、乎を省るなり、

〔倭訓栞前編十〕さぬき　讃岐をよむは音也、大和の地名、上總の地名、因幡の地名にもあり、國名も共に狹貫の義、地形をいふなるべし、一說に竿の調の義、矛竿を貢せし事、古語拾遺に見えたり、のつ反ぬを略する也といへり、

〔全讃史一郡郷〕國郡名義

讃岐國ハ東西二十餘里ニシテ、南北廣キ所ニテモ十里ニ足ラズ、因テ緯狹キ心ニテ讃トイヘリ、古ハ佐貫トカケリ、書紀ニハ讃吉トカケリ、

〔全讃史一郡郷〕東讃古高十二万石、略中西讃古高五万〇〇六十七石五斗、略下

〔古事記上〕伊邪那岐命、略中妹伊邪那美命、略中御合、生子、略中次生伊豫之二名島、此島者身一而有面四、毎面有名、略中讃岐國謂飯依比古、

〔萬葉集相聞〕讃岐狹岑島視石中死人柿本朝臣人麿作歌一首幷短歌

玉藻吉讃岐國者、國柄加、雖見不飽、神柄加、幾許貴寸、略下

〔冠辭考五多〕たまもよし　さぬき

萬葉卷二に、長歌玉藻吉讃岐國者云々、玉藻與といひて、奴とつゞけたり、佐を發語のごとくつゞけなせるは、されかゝらを寢る事にいひなすが如し、其外語を隔てつゞくるもつねの事なり、吉は例の借字にて、與は呼出す辭、志は助辭のみなる事既にいひたり、奴とは玉藻の波にぬえ臥をいへり、下の奈行に擧る奴要草の女にしあれば、夏草の相ねの濱、夏草の奴島の崎などいへるは、草の偃をいひつる中に、奴とのみつゞけしをおもへ、ぬえ、なよゝか、なびく、ぬる、れるなど語通へり、

位置

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

讃岐高松、東濱町極高三十四度二十一分半、經度西一度四十分半、從淡路洲本同上（洲本街道至福浦渡海至阿波岡崎村）自